

言いぶん・even

思いを声に

無意識のジェンダーバイアス

男女が共に参画する地域防災活動に向けての取組

あおき あすか (東京都)
青木 明日香

いで あゆみ (静岡県)
井出 あゆみ

日々の生活の中で、無意識にジェンダーバイアスにかかっていると感じることもある。特に学校教育において、幼い頃から刷り込まれていることの多さに驚く。

身近な例を上げると、小学校入学時に購入の鍵盤ハーモニカは水色がピンクの二択、裁縫道具箱のデザインはフリルやリボンか、戦隊モノのキャラクターやスポーツメーカーのロゴ。そこに緑やオレンジ、黄色等の多様な色遣いは少ない。中学校の冬の宿泊課外活動は、男子は雪かき・かまくら作り、女子は調理活動と選択肢はない。このような場面に遭遇すると、大人側の先入観が透けて見える。

昨今では、運動会での女子応援団長や合唱コンクールでの女子指揮者、男子ピアノ伴奏者が増え、性別に捉われない機会があり好ましく思う一方で、まだまだ、教育課程において無意識に固定観念が植え付けられていると感じることも多い。

子どもたちが成長過程において、自分の希望が奇異な視線を受けることなく自由に選択できるよう、私たち大人は今一度自分の固定観念を見直し、周囲に押し付けていないか、立ち止まって振り返ることが必要ではないだろうか。

地域防災には、女性も組織の責任者に就き、男女共同で対策を進めることが有効である。浜松市では自治会加入率が96%と高く、地域防災は主に自治会ごとに設置された自主防災組織が中心となり担っている。そこで、NPO 活動として、自治会の自主防災組織に女性の役員を増やそうと取り組んだ。

まず「避難所運営リーダー養成講座」を地域ごとに開催し、防災活動に関心の高い女性と自治会の防災担当（現状では主に男性）に受講いただいた。開催後、受講者の女性を所属自治会に推薦し、防災関連の役員登用につなげた。中には、後に自治会長を務めるまでに活躍した女性もいた。

また、自治会に向けては「みんなを明るく元気にする自治会活動の極意」と称する出前講座で、女性の役員を登用した場合の活動の充実を説いた。

自治会訪問も行って意識調査をしたところ、女性の登用を望んでいる自治会が少なくないことがわかった。しかし地域によっては、世帯中心の考え方が強く、自治会も防災組織も男性のみで組まれ、女性の活躍の余地の無いところもあったのは残念だ。

今後も取組を続け、自主防災組織に参画する女性が増え、地域の活性化につながることを期待したい。

投稿をお待ちしています

■本文字数：23字×22行 ■送り先：本誌編集部 ■E-mail：jawe@nifty.com ※掲載分には薄謝をさしあげます